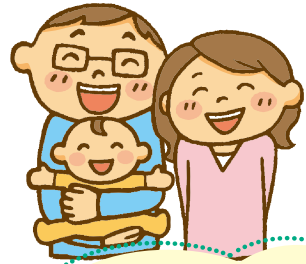


こどもたちが健やかに育つまちに ～いのちを守る、子育て支援に全力～

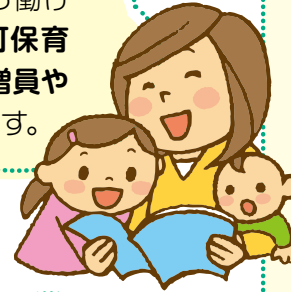


こどもと子育て世代に優しい自治体は、長い目で見れば必ず街に活気を呼び込み、地域経済にも好循環を生みます。



どの子にも健やかな成長と、豊かな学びの場を。そのためには**少人数学級の推進**や**給食費の無償化**は、ぜひ実現したい市民の願いです。

安心して子育てしながら働けるよう、**園庭のある認可保育園の新增設**や**保育士の増員**や**待遇改善**がもっと必要です。

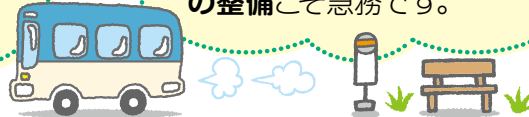


安心・安全の住みよいまちづくり

「日々のくらしでお困りのことはありませんか？」
おおば裕子はすぐに現場へ駆けつけます。

環境を壊し、安全も確保できない**リニア新幹線は中止**。
交通弱者に寄り添った**公共交通**や、**老朽化するインフラの整備**こそ急務です。

水害や震災に備えた、**災害に強いまちづくり**を推し、**生活環境無視の大規模開発にストップ**をかけます。



武蔵小杉駅のホームドア設置・ホーム増設が実現

武蔵小杉駅の深刻なラッシュの解消と、利用客の安全確保は地域住民の願いで、粘り強い運動が取り組まれて来ました。おおば裕子は、県会議員、国会議員とも連携し、JRや関係省庁に市民の声を届けて来ました。その一つである南武線小杉駅のホームドアの設置は、2022年3月に実現しました。同年12月18日には横須賀線小杉駅で、拡幅された下り線の新ホームが開設されます。



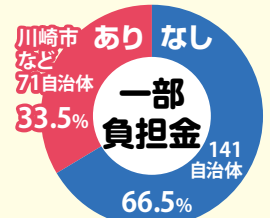
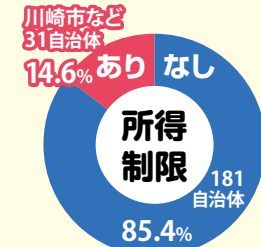
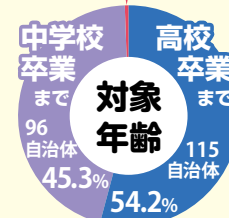
こどもの医療費助成制度が、中学校卒業まで拡大！ 市民のみなさんとの運動で実現します。



90年代から、こどもの医療費助成制度拡充の市民要求に応え、日本共産党市議団は市議会では、115回取り上げてきました。市民と共産党の論戦で追い込まれた市長は、2023年度中には**中学校卒業までの制度拡大と所得制限の撤廃**を、2022年の9月議会で表明。**2023年度のいつから実施**なのか、**一部負担金の撤廃**や**高校卒業までの制度**

現在は川崎市だけが
小学校卒業まで
川崎市1市 0.5%

拡大など市民要求の実現へあと一押しが必要です。市民のみなさんと力をあわせ、さらに奮闘します。



こどもの医療費助成制度・1都3県の状況

出典：千葉県＝2022年8月23日現在（県HPより）、埼玉県＝2022年4月1日現在（県HPより）、神奈川県＝2022年度分を反映、東京都＝2023年度分を反映*日本共産党川崎市議団調べ

雇用とジェンダーギャップの問題に全力

若者の雇用問題は、おおば裕子のライフワークです。2007年、議員になって初めての質問は、非正規雇用で働く青年の劣悪な労働条件など。以来、この分野の質問は31回におよびます。



男女の賃金格差是正や、女性の正規雇用の拡大など、若者や女性が働きがいを享受できる就労支援、**中小企業を応援**する取り組みをすすめます。

政策や実績を詳しく知りたい方はホームページへ

おおば裕子



プロフィール

1961年東京都生まれ。京浜女子（現鎌倉女子）大学短期大学部初等教育科卒。東住吉幼稚園教諭を経て2007年より川崎市議会議員（四期連続）。趣味は登山、コーラスなど。